

IV-496

景観工学に関する研究の傾向と

社会ニーズの動向に関する一考察

ハザマ 正会員 湊隆次郎

ハザマ 正会員 須田清隆

ハザマ 秋田宏行

1. はじめに

景観に対する評価は各人により多種多様であり曖昧性が高いものであるが、景観計画を行うに当たり、少なくともその計画が地域の社会ニーズを満たしたものでなければその地域の文化資産として認識されるような景観は形成されにくいと考える。そのため社会ニーズを的確に把握することは景観計画を行うにあたって重要なポイントである。

以上の点をふまえ、本研究では景観に関する種々の研究が社会ニーズの動向に沿って先行しているという観点にたち、各研究の傾向を明らかにするとともに、今後要求される景観技術の在り方について考察を加える。

2. 研究方法

本研究では、土木学会年次学術講演会の景観工学の分野で発表された論文の内最近5ヶ年(第44回～第48回)分の研究を対象とし、それらを1)研究の対象物としての景 2)研究の目的という2つの側面から捉え、それぞれについて整理、分析を行う。

3. 研究の対象としての景の傾向について

各研究の中で対象とされている景(眺められる対象物としてのもの)を以下のように分類した。

1) ダム、橋梁など単一構造物としての景

2) 都市、街路、河川、港湾など様々な構造物の集合により形成される景

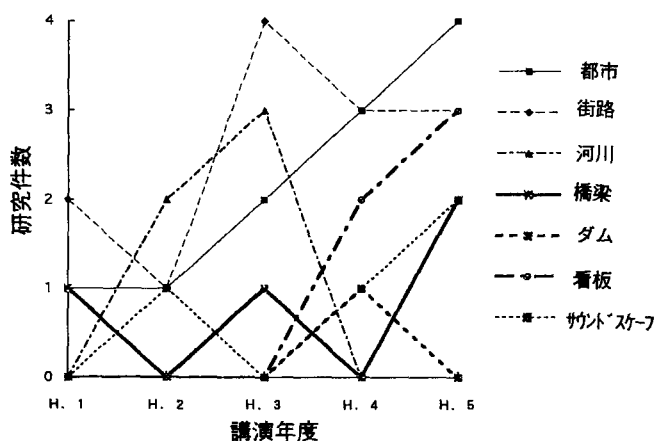
3) 夜景、看板、色彩、緑化、サウンドスケープなど構造物を主の景考えた場合の従的な景(演出効果を有した景)

対象景の研究件数の変動を図-1に示す。

この図より得られる特徴的な点として、「2)における都市、街路の研究件数が1)の各対象景のそれに対して絶対的に多い」「2)において都市に関する研究件数が年を追う毎に増加する傾向にある」「3)において看板に関する研究出現した」などが挙げられる。このことは、「個々の景を別個に捉え評価をくだすことのみならず、

個々の景を集合体の景(地域としての景)として把握、評価することが良質な景観を形成するための必要条件である。」という考え方が認識されつつあることへの裏付けと考えられる。

図-1 各対象景の研究件数の変動



4. 研究の目的の傾向

各研究の目的を以下の6項目に分類した。

- 1) 景観評価方法の確立・・・景観構成要素の物理量に関する分析、景観構成要素に対する心理量に関する分析などにより景観評価方法の確立を目的とするもの。
- 2) 各景観の分析・・・各景観の実態調査を行い、その結果について報告する事を目的とするもの。
- 3) 良質景観の分類・・・名所100選などから良質景観の型を抽出、分類することを目的とするもの。
- 4) デザイン支援・・・デザインを行う際の支援情報を提供する方法の確立を目的とするもの。
- 5) コンセプト作成支援・・・計画の柱となるコンセプトを作成する際の支援情報を提供する方法の確立を目的とするもの。
- 6) CG,CAD技術・・・景観評価やデザインの際に用いるCG,CAD技術の向上を目的とするもの。

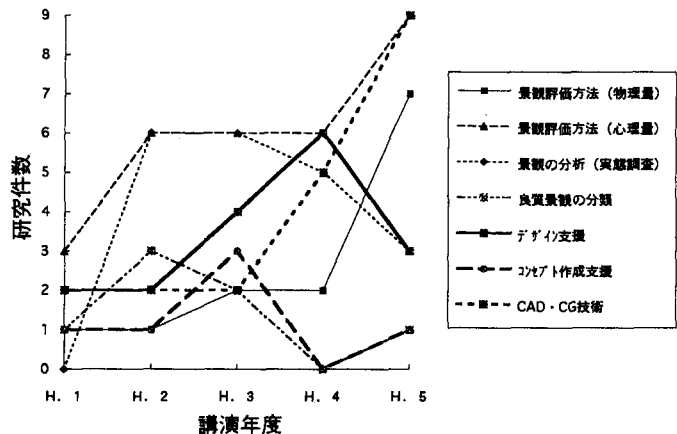
各研究目的の年度毎の件数の変動を図-2に示す。

図-2より得られる特徴的な傾向は、「各景観の分析及び良質景観の分類に関する研究の件数は年を追う毎に減少していく傾向にある。それに対して景観評価方法の確立及びCG、CAD技術に関する研究の件数が飛躍的に増加している、という点である。

この傾向は「各景観の分析及び良質景観の分類に関する研究」を「景観に対する問題意識の芽生え」という現象に置き換え、かつ「景観評価の方法の確立に関する研究」の増加、その中でも心理量に関する研究の件数が増加していることとを合わせると、「景観

という現象に対する問題意識が認識というレベルから評価---対象景の物理量による評価からCG,CADを用いた可視化技術による人の心理量を考慮した評価---というレベルまでステップアップしている。」ということを表していると考えられる。

図-2 各研究目的の件数の変動



5. まとめ

以上、景観に関する研究の傾向を整理、分析する事によって、「景観の景の捉え方に関する考え方の変遷」、「景観に対する問題意識のレベルがステップアップしていること」が分かった。

また従来までの研究は、人間の五感の内のひとつである視覚に的を絞ったものが多数を占めていたが、心理量を考慮した評価方法の研究が増加しつつあること、聴覚により評価されるサウンドスケープの研究が行われるようになってきたことより、今後は人間の五感を考慮した複合景観に関する評価方法の確立、それを援護するCG,CAD技術の更なる向上が社会的ニーズとなりうるであろう。

参考文献

- 1) 進士五十八：景観と計画主体、建築雑誌、1983.3
- 2) 樋口忠彦：景観の構造、技報堂、1975
- 3) 岡田・須田：ダムと景観設計、コンクリート工学、1992.2
- 4) 須田・大谷：土木計画と景観設計、橋梁、1992、12